

ここは
あけちのしょう
明智荘



あけちのしょう
明智荘に広がるバラの園



現在の可見市北東部から御嵩町西部にかけて存在した荘園です。
明智荘についての記録は、今から約1,000年前の平安時代にさかのぼります。藤原摂関家の所領として始まり、後の石清水八幡宮の所領として受け継がれました。

江戸時代には明智荘一帯を「明知八郷」と呼ぶようになりました。明知八郷は、柿田村、淵之上村、瀬田村、平貝戸村、石森村、石井村、顔戸村(現・御嵩町)、古屋敷村(同)の八つの村から成っていたとされます。そして、近代に入ると「明智」の地名は使われることが少なくなり、その地域があったことを知る人も減っています。

この明智荘において、勢力を誇ったとされるのが土岐明智氏です。戦国武将・明智光秀もこの土岐明智氏の一族であるといわれています。江戸時代の書物「美濃国諸旧記」によると、初代の土岐頼兼が康永元年(1342)に可見郡の明智に城を築き「明智」を名乗って以降、その子孫は明智荘に住んだとされています。同書を読み解くと、明智光秀は明智荘生まれということになります。



明智光秀像 本徳寺所蔵(大阪府岸和田市)

花フェスタ記念公園は明智荘の一部であった瀬田に位置しています。瀬田地区には明智城跡、天龍寺、産湯の井戸跡(現在は伝承のみ)と明智一族にゆかりのあるスポットが集中していますので、合わせて散策するのもいいですね。

これからの花フェスタにも注目が集まる!



大河ドラマ「麒麟がくる」に合わせて2020年1月には公園内に大河ドラマ館がオープンする予定です。また、2020年秋ごろの完成を目指した園内の大幅リニューアルも今年から着工を予定しています。

可見市大河ドラマ(麒麟がくる)活用実行委員会

最近よく耳に
しませんか。

大河ドラマ
「麒麟がくる」
明智光秀 生誕地・ゆかりの地

今回は明智荘に位置する「花フェスタ記念公園」を紹介します。およそ7,000品種のバラが咲き誇る世界最大級のバラ園(敷地面積80.7ha、バラ栽培面積9.2ha)。現在、国内で流通しているバラが3,000~4,000品種であることを考えると、驚きの数です。そんな花フェスタに+αの知識をつけて行けば、いつもと違った発見があるかもしれませんね。